

令和 8 年 3 月 31 日

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校

文部科学省「専修学校における学校評価について」による学校評価ガイドラインをベースとして自己点検・評価を実施してまとめた「令和 7 年度自己評価書」を元に、令和 8 年 3 月 1 1 日、学校関係者評価を実施した。

文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

令和 7 年度学校関係者評価委員及び事務局

<関連団体>

鳥羽 茂 氏 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 事務局長

<保育関係>

白鳥 智美 氏 学校法人中村学園 第一ひかり幼稚園 園長

<医療関係>

仲本 和弘 氏 医療法人社団和絃会 やなぎだ眼科医院 事務長

<卒業生>

川崎 誠之 氏 社会福祉法人駿河会 特別養護老人ホーム晃の園 園長

石間 洋美 氏 一般社団法人日本顧問介護士協会 理事長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長

有賀 浩 副校長・教育部長

富田 順子 教頭

中村 健太郎 教育改革推進室室長

原木 伴美 教務課長

後藤 明子 子ども心理学科 学科長

井川 真世 総合福祉学科 学科長

三嶋 秀子 介護福祉学科 学科長

鈴木 ほまれ 視能訓練士学科 学科長

1. 評価項目別学校関係者評価

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	評価	外部評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	4
・学校における職業教育の特色は何か	4	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4

①課題

- ・入学時だけでなく、「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。
- ・「コミュニケーション力」「人間力」を高める為に、学内だけでなく学外の方との接点を多く持つことで各々が向上できる機会を作ることではしたが、その機会を上手く活かせる学生となかなか難しい学生とで差が広がってしまう。
- ・本学の「見学の精神」「校訓」「教育・学習指導方針」に則った指導を教員が意識化できているのか。また、「挨拶励行」が徹底されているのか。教員側から声をかけないと返事がない学生が増えてきている。
- ・医療人としての確固たる基準を持ち、それを指針として物事を考え、決定できる人材を育てていきたい。
- ・「新しいことに挑戦し続ける力」と「現代社会の変化」に気づける敏感さ、それに「柔軟に対応する力」を育てていきたい。

②今後の改善方策

- ・定期的に SHR やゼミナール等において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。
- ・後援会 総会、学級懇談会や不登校気味な学生においては、「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学校へ入学した意味を再確認し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。
- ・まずは、学内の中で言語化する機会、人と関わる機会を増やしていきたい。
- ・教員自身が「見学の精神」「校訓」「教育・学習指導方針」を意識化し、学生指導の根幹とする。
- ・挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、他者の存在を認める行為であるという意識をもてるよう、来年度も継続して声をかけていきたい。

・実際の臨床事例を活用したケーススタディおよびロールプレイングを継続的に実施する。さらに、振り返りとディスカッションの時間を設け、学びや判断根拠を言語化させることで、医療人としての判断基準の確立と、変化に対応できる思考力を定着させていきたい。
③特記事項
・特になし

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・改善方策の評価において、具体的な活動内容（行動の現状と改善点）が見えないと評価が難しい。
- ・社会と同様に、具体的な行動目標を明確にし、その達成度を測る仕組みが必要である。

(2) 学校運営

評 価 項 目	評価	外部評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(3) 教育活動

評 価 項 目	評価	外部評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4

評 価 項 目	評価	外部評価
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4

① 課題

- ・ 日課の変更の目的や意義を学生と教員がよく理解し、有意義に時間を活用できるように指導していく。（放課後等居残り勉強等）
- ・ 外国人留学生の実習に向けて、今後も引き続き受け入れ態勢を強化してもらう。
- ・ 学習の評価基準をより明確化していく。
- ・ 各教員が専門分野に関する知識・技術の向上を図るのはもちろんだが、プラスワンの知識を積極的に学ぶ機会を作りたい。
- ・ 様々な分野の福祉専門職を招いて、今の福祉のニーズをについて学ぶ機会確保のため、特別講座の形で実施できた。（保護観察所、静岡 DWAT）子ども心理学科
- ・ 教員の能力開発のための研修として ICT に関する研修に取り組む必要を感じている。
- ・ 教員経験のない、あるいは経験の浅い教員が増えていることから、指導力および授業運営能力の向上が課題となっている。

② 今後の改善方策

- ・ 有意義に時間を活用できるように指導していく。（放課後等居残り勉強等）
- ・ 各科目においてルーブリックにおける評価基準を行っていく。
- ・ ICT の活用や介護ロボットの活用が現場でどのようになされているのかを含め、今の介護・福祉業界を体感するために教員の現場研修を実施していきたい。
- ・ 実習施設や実習指導者との連携を密にしながら、実習以外のフィールドスタディでも様々な機会を学生に提供できるよう、教員は関係構築を継続して行っていく。

- ・学科内の教員認識として、ICT に対するアンテナは高まった。来年度も継続的に、スキルを向上させていく。学内研修も依頼する。
- ・外部研修・教員研修で習得した内容を引き続き学科内で共有し、教育力の向上につなげる。
- ・定期的に、指導方法や授業運営について意見交換を行う機会を設ける。

③ 特記事項

- ・来年度の学校教育法改正に向け、成績評価や進級・卒業判定の基準を明確かつ厳格にする。

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学校として学生の適性をきちんと評価し、責任を果たしている。
- ・福祉の現場においても、これまでの見守りロボットやバイタルデータの記録といった明確な業務改善に加え、膨大な時間を要する議事録作成等の業務を AI に代替させ、生産性を向上させる流れが急速にきている。
- ・本学においても、教員が現場の最新トレンドに合わせて情報をアップデートし、学生のうちから AI を活用するスキルを養成してほしい。

(4) 学修成果

評 価 項 目	評価	外部評価
・就職率の向上が図られているか	4	4
・資格取得率の向上が図られているか	4	4
・退学率の低減が図られているか	3	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4

①課題

- ・今年度は1年生が2名退学。
- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。
- ・精神的不安のほか、経済的理由により今年度退学者がでてしまった。
- ・卒業生の現場での活躍や本校での学びが活かされている話を巡回時に聞かせていただいている。つながりのある成長する姿を広報にも活かしていきたい。
- ・卒業後の資格取得状況、社会福祉士受験状況についてなかなか情報が集まらない。
- ・学生の中には、様々な事情を抱えている者がいる。特別な配慮が必要な学生に対する個々の支援が求められる中で、どこまで学生に寄り添った支援が学校として必要なのか判断に迷うことが多い。
- ・年々、基礎学力の低下がみられる。学習面を原因とする退学を予防する必要がある。

②今後の改善方策

- ・退学者2名とも精神疾患を抱えていたため、入学時の見定めも慎重さが必要と感じている。
- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNS や同窓会ホームページを活用する。
- ・今後も継続して、個別面談や個別指導により細かな面まで支援していく必要がある。
- ・介護福祉士国家試験の合格率100%を継続できるよう、試験対策を個別にも実施していく。
- ・現在作成している介護福祉士国試対策問題ツール（WEB）の社会福祉士版の作成も行い、卒業生が活用できるものとした。
- ・学科内での教員間の共通理解が非常に重要。学校としての機能や役割を時代に併せてどう捉えていくのか、教員により考えが異なってくると不協和音が生じる。指導方針に対する考え方に関してはコンセンサスを図るための話し合いを継続的に行う必要がある。
- ・専門教科だけではなく、学力面で不安がある学生には算数の補習を引き続き行う。
- ・自分に合った効果的な「学び方」の授業を行い、成績不良が原因の退学を予防する。
- ・入学前から学校に対する帰属意識を高めることと学校を安心・安全な場とする。
- ・ポートフォリオ作成や他学科とのコラボ授業を通して将来像を明確化し、言語化することで、モチベーションの維持につなげる。

① 特記事項

- ・特になし

（学校関係者評価委員からの意見）

- ・現場には様々なケースに対処してきた経験値があるため、無理に隠して後から発覚して混乱を招くよりも、事前に正確な情報をカミングアウト（情報共有）してもらう方が遥かに良い。

（5）学生支援

評 価 項 目	評価	外部評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	4
・保護者と適切に連携しているか	4	4
・卒業生への支援体制はあるか	3	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4

・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4
--	---	---

	①課題 ・関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。 ・中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。 ・学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。 ・経済的支援で前期が学生に負担が大きい。 ・精神的な問題、経済的な問題を抱えている学生が増えてきている。学生が相談しやすい環境を整え、フォロー体制を強化していく。 ・精神的な問題、経済的な問題に加え学生個々の問題が複雑化しているケースもあり、教員の負担も増えてきている。 ・生活管理能力が低い学生に対する支援が難しい。個別相談はかなり行っているが、改善がみられない、効果を感じないことも多い。 ・健康上の問題（精神的・身体的）を抱えている学生がおり、実習施設当て込みの際の配慮が必要。
	②今後の改善方策 ・保護者との連携を強化する。 ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。 ・個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。 ・引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。 ・引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。 ・CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。 ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。 ・担任だけでなく、学科内での情報共有、フォロー体制を強化し、できる範囲での手厚い支援を継続してくが、保護者の過度な期待には応えられないことも理解していただく必要がある。 ・今後も継続して、社会人向け講座（介護入門研修）を実施していく。 ・担任だけが課題を抱えることの無いよう、教員相互に情報共有を行い、組織的なフォロー体制を構築していく。 ・保護者と密な連携を図るとともに、臨地実習の円滑な継続に向けても実習施設の理解と協力を得ながら、継続的に連携体制を構築していく必要がある。
	③特記事項 ・特になし

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(6) 教育環境

評 価 項 目	評価	外部評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4
・防災に対する体制は整備されているか	4	4

①課題

- ・教育環境のデジタル化（教育 DX）に向けて、学習環境の整備と教員自身の教育 DX に対するスキルアップが課題となっている。

②今後の改善方策

- ・学習環境の整備として ICT 環境の充実
- ・教員の資質・能力向上として、研修への参加や課題意識をもつこと。

③特記事項

- ・カリキュラム改訂に伴い必要機器が追加となり、今年度「私立学校教育環境整備事業費補助金」を利用して機器を購入した。また、クリニックより使用しなくなった機器を寄付していただいた。
- ・学校行事である海外研修修学旅行については、今年度も、「台湾研修修学旅行」を実施した。（12/8～12/11）

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	評価	外部評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4	4

①課題

- ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。
- ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。
- ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。
- ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。（海外等）

・SNSの活用、チラシの作成等情報発信を行っているが、伸び悩んでいる。オープンキャンパスに参加したうちの入学者の割合は高いが、そもそものオープンキャンパス参加者が減っているため、まずは来ていただくための広報が必要である。フィールドスタディ活動をうまく学生募集につなげていきたい。 ・企画広報と学科教員との連携が必要である。 ・学生人口が減少している中で、県内に競合校が多く、各校の定員充足率も減少してきているため、学生募集が苦戦し続けている。 ・SNSを頻繁に更新するとともに、資料請求者には手書きメッセージを同封するなどしてきたが、いまだ視能訓練士の知名度が低く定員充足には至っていない。
②今後の改善方策 ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。 ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいので、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。 ・海外からダイレクトに入学するシステム作りをする。 ・人脈を活かして、日本語学校と法人との協力体制を強化し、外国からのルートを確立する。 ・入学時、入学金を払えない留学生が多いので、本学の奨学金制度の見直しを検討している。 ・企画広報と連携し、高校への出前出張の講座を増やしていく。 ・本学の学生と一緒に高校生が参加できるボランティア活動を企画し、福祉と学校のこと両方が知れる機会を提供していきたい。 ・学生募集活動については、広報と協働しながら、SNSでの情報発信を行っている。また、本学と競合校との差異化を意識した教育活動を行っているが、それが外部に発信できているか、評価につながっているか検証する必要がある。 ・学科内で参加者が楽しめる企画を考え、次年度のオープンキャンパスで実施したい。 ・3月のスペシャルオープンキャンパスでは、3年生に卒業研究発表会の内容を参加者に見ていただき、本学科の3専攻による実践からの学びの成果を見ていただく予定。 ・引き続き、実習巡回の際に、各施設に視能訓練士啓蒙のためにポスターやリーフレットの配布を行う。 ・眼科医会の協力を得て視能訓練士の知名度を上げていく。
③特記事項 ・特になし

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(8) 財務

評 価 項 目	評価	外部評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価	外部評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4
・自己評価結果を公開しているか	4	4

①課題

- ・個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。

②今後の改善方策

- ・法令遵守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。
- ・SNS などによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を具体的に周知する。

③特記事項

- ・特になし

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評価	外部評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	4

① 課題
・ボランティア活動や研究活動において関わった事業所や機関より、今後も継続して活動をしていきたいと思いますとお声かけいただけており、継続して広げていきたい。 ・学生・教員で小中学生に対する福祉教育を行う機会を増やし、福祉のしごとに対する種まきを行っていく必要がある。 ・視能訓練士の啓蒙および職業意識の向上につながるボランティア活動を実施したい。
② 今後の改善方策
・介護入門研修を施設の新人研修の一つとして位置付けてくださる施設が増え、毎回参加人数が確保できている状況である。技能実習生向けや就労支援をプラスした講座も検討していきたい。 ・使用済み眼鏡をアフリカへ提供する国際支援活動を通じて、視覚医療に携わる専門職としての使命感や職業意識を高める教育的効果が得られたと思う。
③ 特記事項
・特になし

(学校関係者評価委員からの意見)

・特になし

(11) 国際交流

評 価 項 目	評価	外部評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	4

① 課題
・日本人だけでは介護人材を増やすことができない。
② 今後の改善方策
・人脈を活かして、日本語学校と法人との協力体制を強化し、外国からのルートを確立する。 ・入学時、入学金を払えない留学生が多いので、本学の奨学金制度の見直しを検討している。併せて、県からの支援が増えるように働きかける。
③ 特記事項
・特になし

(学校関係者評価委員からの意見)

・特になし

以 上